

第 49 回日本医療薬学会公開シンポジウム開催報告書

第 49 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 山田清文

平成 25 年 10 月 12 日(土)に名古屋大学医学部附属病院・中央診療棟 3 階講堂において、第 49 回日本医療薬学会公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会主催、後援：愛知県病院薬剤師会・愛知県薬剤師会・特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構）を開催いたしました。

当日は、愛知県内だけでなく北海道、熊本、広島、京都、東京など遠方からの参加も多くあり、病院薬剤師、薬局薬剤師、薬学教員、薬学生を含め 240 名の参加者となりました。

本シンポジウムでは、「薬物療法専門薬剤師によるチーム医療の推進」をメインテーマと致しました。薬物療法専門薬剤師認定制度は、平成 24 年に立ち上がったばかりであり、認定者数は少ないものの、本制度に対する会員の関心は高いと思われまます。そこで、本シンポジウムでは、薬物療法専門薬剤師や薬物療法指導薬剤師の先生に実際の活動例を講演いただき、薬物療法専門薬剤師に期待される役割(ロールモデル)と将来目指す方向性について議論しようという趣旨で開催いたしました。

特別講演Ⅰでは、慶應義塾大学・医学部・臨床薬理学教授の谷川原祐介先生に「薬物療法専門薬剤師の「専門性」と期待する役割」についてご講演いただきました。谷川原先生の講演では、がん専門薬剤師制度の立ち上げまでの経緯や認定基準などについて説明していただいた上で、薬物療法専門薬剤師に求められる能力や役割についてお話し頂きました。

シンポジウムでは、薬物療法専門薬剤師や薬物療法指導薬剤師としてご活躍されている 3 名の先生方に講演して頂きました。独立行政法人国立病院機構大阪医療センターの中蔵伊知郎先生には、「大阪医療センターにおける感染対策チームの実践例」と題して、カルバペネム系抗菌薬使用患者の全症例においてモニタリングおよび介入する取り組みの中で、薬物療法専門薬剤師としてどのような考えを持ち、医師とともに業務に当たっているかについてお話し頂きました。名古屋第一赤十字病院の櫛原秀之先生には、「名古屋第一赤十字病院におけるがん化学療法チームの実践例」と題して、がん化学療法センターの取り組みやがん化学療法チームにおいて薬物療法専門薬剤師が担う役割についてお話しして頂きました。また、長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院の三浦篤史先生には、「佐久総合病院における緩和ケアチームの実践例」と題して、直腸がん患者のストーマ交換時の疼痛緩和に關与した事例や乳がん患者の皮膚潰瘍ケアへ關与した事例について紹介して頂きました。

特別講演Ⅱでは、広島大学病院薬剤部教授・薬剤部長の木平健治先生に「薬剤師の業務と薬物療法専門薬剤師」についてご講演いただきました。木平先生の講演では、日本における病院薬剤師業務の変化、チーム医療の推進に伴う各専門薬剤師認定制度設立の経緯や薬物療法専門薬剤師に期待される役割について説明して頂きました。

総合討論では、薬物療法専門薬剤師の位置づけや今後の展望について活発な意見交換がな

されました。今回のシンポジウムを契機として、多くの先生方に薬物療法専門薬剤師を目指して頂き、医療チームの一員として専門性を発揮し、質の高い薬物療法に貢献していただきたいと望んでいます。

最後に、講演を快く引き受けて頂きました演者の先生方、並びにシンポジウムをご後援いただいた愛知県病院薬剤師会、愛知県薬剤師会、特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構の関係各位、さらに終始親切丁寧にご対応頂きました日本医療薬学会事務局の方々に心より感謝申し上げます。